

長坂収さんを偲んで

SUPER WAVE VI 河村

SUPER WAVE VI (以下「S.W.」) 代表オーナー長坂収氏が8月27日に75歳で逝去しました。人生100年時代において75歳は余りに早過ぎる。残念・無念！
昨年2月の抗がん剤治療開始から1年半、懸命に病と闘って来ましたが叶いませんでした。我々S.W.メンバーは勿論、MCC・JSAF 東海ヨット関係者にとって大変大きな損失で、悲しみに耐えません。

しかしながら、亡くなる1週間前ご家族に「75年、自分の好きなように人生を全うする事が出来、何も思い残す事は無い、楽しい人生だった。」と話されたとの事から、本当に充実した素敵な生涯だったのだと思います。

長坂さんとの出会いは、約35年前MCC的矢クルージングでお互い「ララ」に同乗させて頂き、鳥羽マリーナで牡蠣を腹一杯堪能、すっかり意気投合し、その後長坂さん達豊田市役所メンバー所有のYAMAHA25「My Lady」に度々乗せてもらう事となった。
数年後、「My Lady」からYAMAHA YR30に乗り換える時、我々中電メンバー数名が加わり、S.W.を結成し、MCCやNORC（現JSAF）のレースに本格的に参加するようになった。
その後、YAMAHA 31Festaを経て、現Slot31に乗り換え現在に至っている。

長坂さんは、この間、S.W.代表オーナーとしてレース活動の傍ら審判員（ナショナルジュリィ）資格を取得、JSAFレース委員長を始め数々の運営にも携わる事となった。
レースや運営において、年齢を感じさせないバイタリティー、タフさ、誰とでも直ぐに打ち解ける人懐こさを併せ持つ正にナイスガイなヨットマンでした。
ホームポートが三谷 Y.H. から三河御津マリーナ移る中、毎週のようにマリーナに出向き、S.W.のメンテナンスも行う等、ヨット漬けの生活、正に「海の男」でした。

6月2日、
病状の進みつつあった長坂さんに
S.W.に乗艇して貰い、S.W.関係者一同で
慣れ親しんだ三河湾を和気あいあいと
和みながらクルージングしたのが
最後の思い出となってしまいました。

覚悟していたとは言え、
今でも亡くなったのが信じられません。
きっと、あの世でも慣れ親しんだ三河大島・佐久島・梶島周辺の三河湾を真っ黒に
日焼けした笑顔を携えながら長坂さんはセーリングしている事と思います。 合掌！

